

令和 2 年 度

徳島県小学校教育研究会 要 覧

— 研 究 主 題 —

自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る
日本人の育成を目指す小学校教育の推進
— 主体的・対話的で深い学びを通して
生涯にわたって学び続ける力を身に付けた子供の育成 —

徳島県小学校教育研究会

目 次

1	徳島県小学校教育研究会 会則	1
2	徳島県小学校教育研究会 組織	4
3	役員一覧表	5
	(1) 本部役員	
	(2) 常任委員	
	(3) 郡市理事（郡市研修係校長）	
	(4) 部会理事（部会長）	
	(5) 部会幹事	
4	徳島県小学校教育研究会 研究活動	9
5	令和2年度 徳島県小学校教育研究会 研究主題	13
6	令和2年度 徳島県小学校教育研究会 事業計画	14
7	平成30年度・令和元年度決算・令和2年度予算案	20
8	会費集金と納入について	22
9	小教研会計事務処理について	23
10	徳島県小学校教育研究会の運営について	25
11	その他	30
	徳島県小学校教育研究会 諮問委員会	
	令和2年度 別途会計（教育会・弘済会・互助組合よりの助成金）について	
	令和2年度 各部会費目別予算額	

1 徳島県小学校教育研究会 会則

第1章 総 則

第1条 本会は、徳島県小学校教育研究会と称する。

第2条 本会は、小学校の各教科・特別の教科道徳・特別活動・総合的な学習の時間・外国語活動等に関する諸課題を研究し、本県小学校教育の向上に役立てることを目的とする。

第3条 本会の事務局は、会長の指定する場所に置く。

第2章 事 業

第4条 本会は、次の事業を行う。

- 1 研究大会・研究会・講演会等の開催
- 2 研究・調査
- 3 研究成果の作成・刊行
- 4 その他第2条に掲げた目的に役立つ事業

第3章 組 織

第5条 本会は、県内の小学校教育に従事する教職員及び本会の趣旨に賛同する者をもって組織する。

第6条 本会に、次の各部会を置く。

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1 校長研修部会 | 2 教頭研修部会 | 3 国語部会 |
| 4 書写部会 | 5 社会部会 | 6 算数部会 |
| 7 理科部会 | 8 生活部会 | 9 音楽部会 |
| 10 図画工作部会 | 11 家庭部会 | 12 体育部会 |
| 13 道徳部会 | 14 特別活動部会 | 15 総合部会 |
| 16 外国語部会 | 17 養護部会 | 18 情報教育部会 |
| 19 生徒指導部会 | 20 食育部会 | |

第4章 役 員

第7条 本会には、次の役員を置く。

第8条 役員の選出は、次の規定による。

- | | | |
|--------------|-------------|---------------|
| 1 会 長 1名 | 2 副 会 長 3名 | 3 監 事 2名 |
| 4 理 事 若干名 | 5 幹 事 若干名 | 6 常 任 委 員 若干名 |
| 7 事 務 局 長 1名 | 8 事務局次長 若干名 | |

- 1 会長、副会長、監事及び常任委員は、運営委員会において選出する。
- 2 理事は、各部会の長及び郡市からの推薦された各1名を充てる。
- 3 幹事は、部会からの推薦されたものを原則として各1名を充てる。
- 4 事務局長・事務局次長は、会長が委嘱する。

第9条 各役員の任務は、次のように定める。

- 1 会長は、本会を代表し会務を総括する。
- 2 副会長は、会長を補佐し、会長が事故あるときは、その職務を代行する。
- 3 監事は、本会の会計監査にあたる。
- 4 理事、幹事及び常任委員は、会務の運営処理にあたる。
- 5 事務局長は、本会の事務を総括する。
- 6 事務局次長は、事務局長を補佐し、本会の庶務・会計事務を処理する。

第10条 各役員の任期は、1か年とし再任をさまたげない。

第5章 会 議

第11条 本会の運営を円滑にするために、次の会を置く。

- 1 運営委員会
- 2 常任委員会
- 3 部会長会
- 4 郡市理事会
- 5 部会幹事会

- 2 会長は、特別な事項については意見を求めるために諮問委員会を置くことができる。
諮問委員会の細則については、別に定める。

第12条 運営委員会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織し、年1回以上開き、次の事項を審議する。

- 1 事業計画及びその運営に関する事項
- 2 予算の審議・決定
- 3 会則の変更
- 4 会長・副会長・監事の選出
- 5 その他必要と認められる事項

第13条 運営委員会の議決は、出席者の多数決による。

第14条 常任委員会は、会長、副会長、事務局長・次長及び常任委員によって組織する。
常任委員の構成は、次のとおりとする。

構 成

郡 市 理 事	四ブロック（東部・北部・南部・西部）より 各1名	計 4名
部 会 長	A分野から3名， B分野から1名	計 4名
部 会 幹 事	〃	計 4名

なお、常任委員の選出は、運営委員会において互選し、次の事項を審議する。

- 1 小学校教育研究会の全体運営の企画に対する原案の作成
- 2 次年度の研究主題・副主題について
- 3 統一大会・郡市大会等の研究会の開催方法について

第15条 部会長会は、会長、副会長、事務局長・次長及び部会長によって組織し、教育内容に関する事項について協議する。部会長会はその必要に応じて開き、会長が招集する。

第16条 郡市理事会は、会長、副会長、事務局長・次長及び郡市理事によって組織し、運営に関する事項について協議する。郡市理事会はその必要に応じて開き、会長が招集する。

第17条 部会幹事会は、会長、副会長、事務局長・次長及び部会幹事によって組織し、主題研究大会の運営に関する事項を協議する。部会幹事会は、その必要に応じて開き、会長が招集する。

第6章 会 計

第18条 本会の経費は、会費・補助金・寄付金・その他をもってこれに充てる。

第19条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

付 則

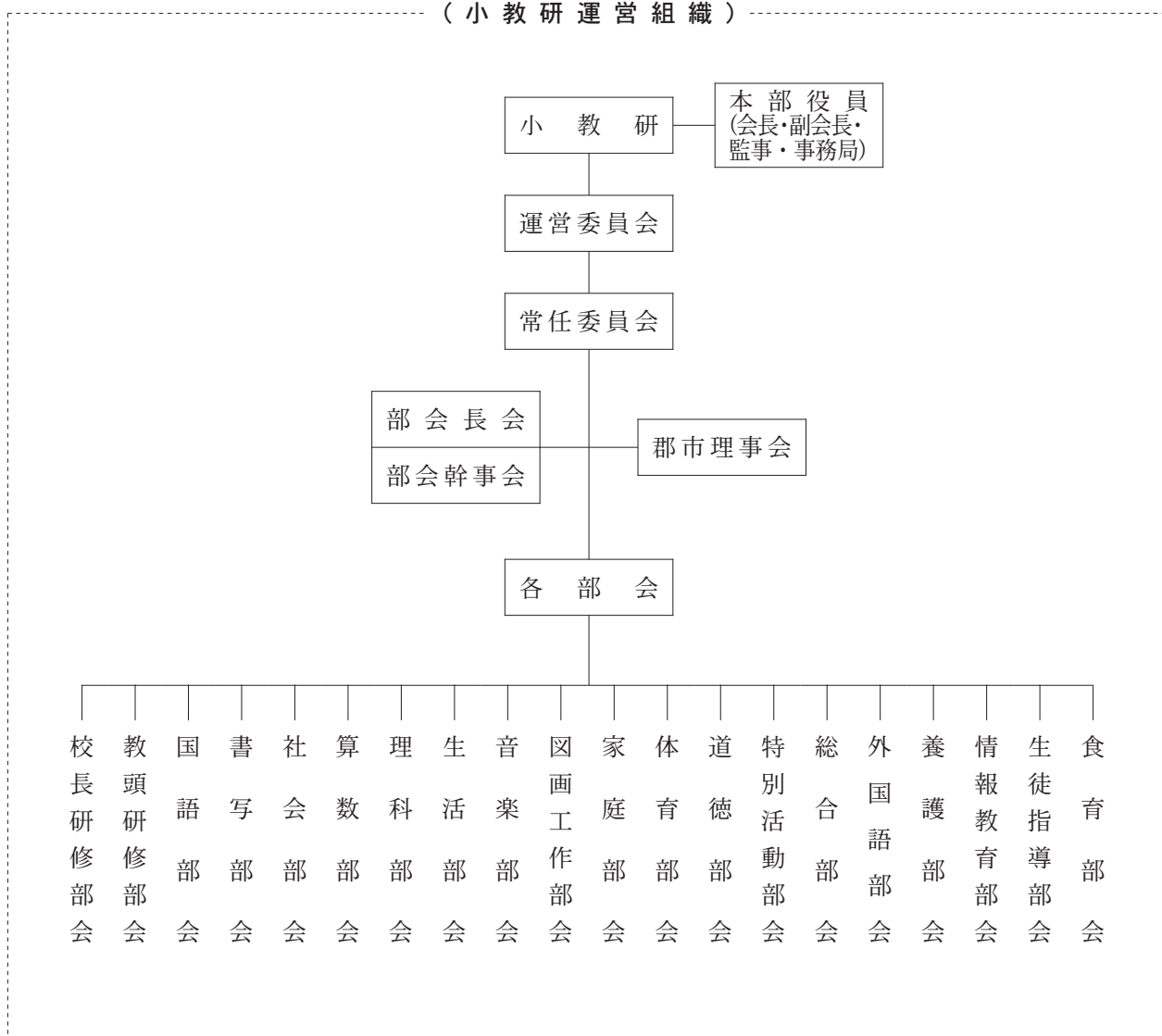
本会は昭和38年5月1日から実施する。

(昭和39年 3月28日	一部改正)
(昭和40年 3月29日	一部改正)
(昭和41年 1月27日	一部改正)
(昭和42年 2月17日	一部改正)
(昭和43年12月17日	一部改正)
(昭和46年 6月 8日	一部改正)
(昭和50年 1月13日	一部改正)
(昭和58年12月 8日	一部改正)
(平成 2年 6月 4日	一部改正)
(平成 4年 5月29日	一部改正)
(平成 6年 5月30日	一部改正)
(平成12年 5月26日	一部改正)
(平成13年 3月 2日	一部改正)
(平成14年 5月22日	一部改正)
(平成17年 3月 4日	一部改正)
(平成22年 5月21日	一部改正)
(平成23年 5月20日	一部改正)
(平成25年 3月 1日	一部改正)
(平成26年 3月 7日	一部改正)
(平成28年 2月22日	一部改正)
(平成28年11月 4日	一部改正)
(平成30年 2月19日	一部改正)
(令和 2年 2月17日	一部改正)

2 徳島県小学校教育研究会 組織

全 体 組 織

(小 教 研 運 営 組 織)



3 役 員 一 覧 表

(1) 本 部 役 員

番号	役 職 名	氏 名	職 名	勤 務 校		
				校 名	所 在 地	電 話 番 号
					メ ー ル ア ド レ ス	F A X 番 号
1	会 長 (郡市理事)	今 川 仁 史	校 長	福 島 小	〒770-0868 徳島市福島1丁目7番28号	088-622-8197
					fukushima_es02@tgn.tcn.ne.jp	088-622-8296
2	副 会 長 (校長部会長)	寺 奥 幹 生	校 長	広 野 小	〒771-3201 名西郡神山町阿野字広野 22 番地	088-678-0806
					hirono_es@tgn.tcn.ne.jp	088-678-0868
3	副 会 長 (郡市理事)	岩 佐 隆 之	校 長	相 生 小	〒771-5406 那賀郡那賀町延野字大原80番地	0884-64-0123
					aioielem@ca.pikara.ne.jp	0884-64-0111
4	副 会 長 (教頭部会長)	山 口 洋 之	教 頭	川 内 北 小	〒771-0131 徳島市川内町大松133番地	088-665-0007
					kawakita_es@tgn.tcn.ne.jp	088-665-4675
5	監 事 (郡市理事)	新 見 員 子	校 長	知 恵 島 小	〒776-0014 吉野川市鴨島町知恵島781番地	0883-24-2329
					tiejima-eskj@yoshinogawa.i-tokushima.jp	0883-22-1668
6	監 事 (部会理事)	安 田 哲 也	校 長	佐 古 小	〒770-0034 徳島市南佐古四番町1番32号	088-622-7878
					sako_es05@tgn.tcn.ne.jp	088-622-7879
7	事 務 局 長	真 鍋 紀 子	校 長	大 松 小	〒770-8022 徳島市大松町上野神9番地	088-669-0814
					omatsu_es07@tgn.tcn.ne.jp	088-669-0849
8	事務局次長 (会計担当)	森 田 範 子	校 長	昭 和 小	〒770-0943 徳島市中昭和町5丁目60	088-652-8079
					showa_es10@tgn.tcn.ne.jp	088-652-4850
9	事務局次長 (出版担当)	竹 中 章 公	校 長	不 動 小	〒770-0063 徳島市不動本町2丁目133	088-631-0521
					fudo_es01@tgn.tcn.ne.jp	088-631-0990
10	事務局次長 (諮問委員会担当)	竹 内 照 記	校 長	喜 来 小	〒770-0212 松茂町中喜来字前原西一番越14番地	088-699-2724
					kiraisho@asahi-net.email.ne.jp	088-699-7452

(2) 常 任 委 員

郡 市 理 事		部 会 理 事		部 会 幹 事	
東 部	西 條 明 宏 (徳 東)	A	中 野 裕 文 (理 科)	A	田 中 將 太 (国 語)
北 部	宮 本 浩 子 (鳴 門)		大 西 育 郎 (音 楽)		吉 岡 泰 三 (音 楽)
南 部	前 田 和 成 (小 松 島)		村 井 徹 志 (総 合)		森 裕 二 郎 (図 工)
西 部	荒 岡 勲 (美 馬)	B	藤 島 則 之 (生徒指導)	B	浅 野 千 恵 子 (養 護)

(3) 郡 市 理 事 (郡市研修係校長)

番号	郡 市 名	氏 名	職 名	勤 務 校		
				校 名	所 在 地	電 話 番 号
					メ ー ル ア ド レ ス	F A X 番 号
1	徳島市・名東郡	西條 明宏	校 長	応 神 小	〒771-1153 徳島市応神町吉成字西吉成91-1	088-641-1081
					oujin_es@tgn.tcn.ne.jp	088-641-1084
2	鳴 門 市	宮本 浩子	校 長	里 浦 小	〒772-0021 鳴門市里浦町里浦字西浜 401	088-686-0236
					satoura01@md.pikara.ne.jp	088-686-0276
3	小 松 島 市	前田 和成	校 長	立 江 小	〒773-0017 小松島市立江町字松本34番地の3	0885-37-1002
					tatsuesyo@fm.nmt.ne.jp	0885-37-0928
4	阿 南 市	尾川 和人	校 長	岩 脇 小	〒779-1106 阿南市羽ノ浦町岩脇町筋 87	0884-44-2234
					iwasyo@ca.pikara.ne.jp	0884-44-3430
5	勝 浦 郡	栗村 洋子	校 長	生 比 奈 小	〒771-4302 勝浦郡勝浦町大字中角字豊田1番地の1	0885-42-3004
					ikuhina-syo@kkcatv.jp	0885-42-3947
6	那 賀 郡	岩佐 隆之	校 長	相 生 小	〒771-5406 那賀郡那賀町延野字大原80番地	0884-64-0123
					aioielem@ca.pikara.ne.jp	0884-64-0111
7	海 部 郡	豊崎 好美	校 長	日 和 佐 小	〒779-2305 海部郡美波町奥河内字本村34番地1	0884-77-0055
					kogame@hiwasasyo.minamicho.ed.jp	0884-77-0095
8	名 西 郡	山口 哲司	校 長	高 川 原 小	〒779-3223 名西郡石井町高川原字高川原1167	088-674-0105
					takagawara01@ca.pikara.ne.jp	088-674-6697
9	板 野 郡	藤山 克己	校 長	東 光 小	〒771-1330 板野郡上板町西分字東光8番地	088-694-2068
					toko@kamiita-edu.jp	088-637-6108
10	阿 波 市	林 雅敏	校 長	大 俣 小	〒771-1612 阿波市市場町上喜来字西原200番地	0883-36-2158
					oomata_es@awa.ed.jp	0883-36-5758
11	吉 野 川 市	新見 員子	校 長	知 恵 島 小	〒776-0014 吉野川市鴨島町知恵島781番地	0883-24-2329
					tiejima-eskj@yoshinogawa.i-tokushima.jp	0883-22-1668
12	美馬市・美馬郡	荒岡 勲	校 長	美 馬 小	〒771-2106 美馬市美馬町字谷ヨリ西 68	0883-55-2233
					mimashou@city.mima.ed.jp	0883-55-2234
13	三好市・三好郡	佐藤 元	校 長	昼 間 小	〒771-2501 三好郡東みよし町昼間1637	0883-79-2158
					hiruma@h-miyoshi.ed.jp	0883-79-5110

(4) 部 会 理 事 (部会長)

番号	部 会 名	氏 名	職 名	勤 務 校		
				校 名	所 在 地	電 話 番 号
					メ ー ル ア ド レ ス	F A X 番 号
1	校 長 研 修	寺 奥 幹 生	校 長	広 野 小	〒771-3201 名西郡神山町阿野字広野 22 番地	088-678-0806
					hirono_es@tgn.tcn.ne.jp	088-678-0868
2	教 頭 研 修	山 口 洋 之	教 頭	川 内 北 小	〒771-0131 徳島市川内町大松133番地	088-665-0007
					kawakita_es@tgn.tcn.ne.jp	088-665-4675
3	国 語	西 條 明 宏	校 長	応 神 小	〒771-1153 徳島市応神町吉成字西吉成91-1	088-641-1081
					oujin_es@tgn.tcn.ne.jp	088-641-1084
4	書 写	荒 岡 勲	校 長	美 馬 小	〒771-2106 美馬市美馬町字谷ヨリ西 68	0883-55-2233
					mimashou@city.mima.ed.jp	0883-55-2234
5	社 会	稲 井 智 義	校 長	論 田 小	〒770-8011 徳島市論田町本浦上9番地	088-662-0402
					ronden_es00@tgn.tcn.ne.jp	088-662-0469
6	算 数	吉 本 俊 二	校 長	一 条 小	〒771-1402 阿波市吉野町西条字岡ノ川原135番地	088-696-2084
					ichijyo_es@awa.ed.jp	088-696-2195
7	理 科	中 野 裕 文	校 長	沖 洲 小	〒770-0874 徳島市南沖洲2丁目2-4	088-664-0321
					okinosu_es@tgn.tcn.ne.jp	088-664-0366
8	生 活	真 鍋 紀 子	校 長	大 松 小	〒770-8022 徳島市大松町上野神9番地	088-669-0814
					omatsu_es07@tgn.tcn.ne.jp	088-669-0849
9	音 楽	大 西 育 郎	校 長	今 津 小	〒779-1115 阿南市那賀川町敷地 238 番地	0884-42-0702
					imadu@mb.pikara.ne.jp	0884-42-1225
10	図 画 工 作	阿 部 憲 作	校 長	板 野 西 小	〒770-0111 板野郡板野町那東字泉西5番地	088-672-0309
					itano-nishi@mb.pikara.ne.jp	088-672-6039
11	家 庭	新 見 員 子	校 長	知 恵 島 小	〒776-0014 吉野川市鴨島町知恵島781番地	0883-24-2329
					tiejima-eskj@yoshinogawa.i-tokushima.jp	0883-22-1668
12	体 育	安 田 哲 也	校 長	佐 古 小	〒770-0034 徳島市南佐古四番町1番32号	088-622-7878
					sako_es05@tgn.tcn.ne.jp	088-622-7879
13	道 徳	橋 本 隆	校 長	北 島 小	〒771-0203 板野郡北島町中村字長池17-3	088-698-2250
					hyotan2250@nifty.com	088-698-1010
14	特 別 活 動	岩 佐 隆 之	校 長	相 生 小	〒771-5406 那賀郡那賀町延野字大原80番地	0884-64-0123
					aioielem@ca.pikara.ne.jp	0884-64-0111
15	総 合	村 井 徹 志	校 長	横 瀬 小	〒771-4307 勝浦郡勝浦町大字三溪字上川原13番地の2	0885-42-2009
					yokose-syo@kkcatv.jp	0885-42-3948
16	外 国 語	西 岡 一 郎	校 長	城 東 小	〒770-0861 徳島市住吉3丁目2-5	088-652-0555
					joto_es@tgn.tcn.ne.jp	088-652-0564
17	養 護	西 條 明 宏	校 長	応 神 小	〒771-1153 徳島市応神町吉成字西吉成91-1	088-641-1081
					oujin_es@tgn.tcn.ne.jp	088-641-1084
18	情 報 教 育	今 川 仁 史	校 長	福 島 小	〒770-0868 徳島市福島1丁目7番28号	088-622-8197
					fukushima_es02@tgn.tcn.ne.jp	088-622-8296
19	生 徒 指 導	藤 島 則 之	校 長	北 島 北 小	〒771-0201 板野郡北島町北村字老町四反地20-1	088-698-2010
					kitakitaes@nifty.com	088-698-1011
20	食 育	小 泉 雅 彦	校 長	藍 住 西 小	〒771-1231 板野郡藍住町富吉字富吉55-1	088-692-2436
					ainishi@ma.pikara.ne.jp	088-692-9101

(5) 部 会 幹 事

番号	部 会 名	氏 名	職 名	勤 務 校		
				校 名	所 在 地	電 話 番 号
					メ ー ル ア ド レ ス	F A X 番 号
1	校 長 研 修	安 田 哲 也	校 長	佐 古 小	〒770-0034 徳島市南佐古四番町1番32号	088-622-7878
					sako_es05@tgn.tcn.ne.jp	088-622-7879
2	教 頭 研 修	稲 井 悦 子	教 頭	城 東 小	〒770-0861 徳島市住吉3丁目2-5	088-652-0555
					joto_es@tgn.tcn.ne.jp	088-652-0564
3	国 語	田 中 將 太	教 諭	鳴大附属小	〒770-0808 徳島市南前川町1-1	088-623-0205
					sytanaka@naruto-u.ac.jp	088-655-6414
4	書 写	入 口 和 美	教 諭	羽ノ浦小	〒779-1101 阿南市羽ノ浦町中庄原婦知1番地1	0884-44-2053
					hasyo@ca.pikara.ne.jp	0884-44-5700
5	社 会	松 永 宏	教 諭	飯尾敷地小	〒776-0033 吉野川市鴨島町飯尾7番地	0883-24-2527
					inooshikiti-eskj@yoshinogawa.i-tokushima.jp	0883-22-1666
6	算 数	山 田 裕 也	教 諭	内 町 小	〒770-0851 徳島市徳島町城内1番地の15	088-622-0742
					uchimachi_es@tgn.tcn.ne.jp	088-622-0743
7	理 科	長 野 仁 志	教 諭	鳴大附属小	〒770-0808 徳島市南前川町1-1	088-623-0205
					hchouno@naruto-u.ac.jp	088-655-6414
8	生 活	寺 田 美 喜	教 諭	大 松 小	〒770-8022 徳島市大松町上野神9番地	088-669-0814
					omatsu_es@tgn.tcn.ne.jp	088-669-0849
9	音 楽	吉 岡 泰 三	教 諭	佐 古 小	〒770-0034 徳島市南佐古四番町1番32号	088-622-7878
					sako_es@tgn.tcn.ne.jp	088-622-7879
10	図 画 工 作	森 裕 二 郎	教 諭	佐那河内小	〒771-4101 名東郡佐那河内村下字中川原30	088-679-2611
					sasyou@tgn.tcn.ne.jp	088-679-2612
11	家 庭	佐々木夕子	教 諭	板 野 東 小	〒779-0104 板野郡板野町吹田字町東2番地	088-672-0026
					itanohigashi@mb.pikara.ne.jp	088-672-0299
12	体 育	山 花 悟 朗	教 諭	国 府 小	〒779-3124 徳島市国府町中61-1	088-642-1013
					kokufu_es@tgn.tcn.ne.jp	088-642-1342
13	道 徳	福本公美子	教 諭	加茂名南小	〒770-0046 徳島市鮎喰町二丁目11-88	088-633-1611
					kanan_es@tgn.tcn.ne.jp	088-633-1612
14	特 別 活 動	谷 聡 司	主 幹 教 諭	川 島 小	〒779-3303 吉野川市川島町桑村2193番地	0883-25-2360
					kawashima-eskj@yoshinogawa.i-tokushima.jp	0883-25-2379
15	総 合	日浦有紀子	教 諭	八 万 小	〒770-8064 徳島市城南町4丁目1-52	088-652-5049
					hachiman_es@tgn.tcn.ne.jp	088-652-5073
16	外 国 語	堀 井 晴 美	指 導 教 諭	神 領 小	〒771-3310 名西郡神山町神領字大埜地411-1	088-676-0015
					jinryou_es@tgn.tcn.ne.jp	088-676-1475
17	養 護	浅野千恵子	養 護 教 諭	佐 古 小	〒770-0034 徳島市南佐古四番町1番32号	088-622-7878
					sako_es02@tgn.tcn.ne.jp	088-622-7879
18	情 報 教 育	齋 藤 剛	教 諭	足 代 小	〒771-2502 三好郡東みよし町足代2708番地	0883-79-2104
					ashiro@h-miyoshi.ed.jp	0883-79-5890
19	生 徒 指 導	大 藪 賢 一	教 諭	板 野 南 小	〒779-0118 板野郡板野町下庄字栖養44番地	088-672-0102
					itanominami@mb.pikara.ne.jp	088-672-0302
20	食 育	西野由布子	栄 養 教 諭	見 能 林 小 阿南市南部 学校給食セ ンター	〒774-0022 阿南市大湊町214番地23	0884-21-7220
					nk7220@leaf.ocn.ne.jp	0884-21-7225

4 徳島県小学校教育研究会 研究活動

(1) 研究の基本方針

① 研究の目的

学習指導要領の趣旨にのっとり、知徳体の調和のとれた人間性豊かな児童を育成するために、授業のあり方・創造的な学習指導方法の探究を通して、専門職としての教師の資質の向上と指導力の向上をはかる。

② 全体主題

自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進
—— 主体的・対話的で深い学びを通して 生涯にわたって学び続ける力を身に付けた子供の育成 ——

③ 新学習指導要領の方針

平成 29 年 3 月に新しい指導要領が告示され、令和 2 年度から全面実施されている。今回の改訂のポイントとして次の 4 つがあげられている。

ア 今回の改訂の基本的な考え方

- 教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を生かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成。その際、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視。
- 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成。
- 先行する特別教科化など道德教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成。

イ 知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」

- 「何ができるようになるか」を明確化
- 我が国の教育実践の蓄積にもとづく授業改善

ウ 各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立

エ 教育内容の主な改善事項

- 言語能力の確実な育成
- 理数教育の充実
- 伝統や文化に関する教育の充実
- 道德教育の充実
- 体験活動の充実
- 外国語教育の充実

④ 研究の視点

今年度は次の 4 つの視点に基づいて、研究に取り組んでいきたいと考える。

ア 「主体的・対話的で深い学び」の充実

主体的な学びについては、学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組むことができるようにするとともに、自らの学びを振り返る場の設定も大切である。特に学習の後で「以前より、よくわかるようになった」「自分が成長した」という自覚をもたせることが肝要である。授業を通して、自らの学習の成果を明らかにし、学習に対する意欲を高めていきたい。

対話的な学びについては、子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深められているかという視点で指導のあり方を見直していく。その手立てとして、話し合い、ディベート、ワークショップ、発表会等、多様な方法で他者と対話する場面を単元全体や授業の中に明確に位置付け、計画的、系統的、継続的に展開することで、自らの考えを広げ深めることをねらいたい。

深い学びとは、習得・活用・探究という学びの過程の中で各教科等の特質に応じた「見方や考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学びである。

これらは、学びの本質として重要な点を異なる側面からとらえたものである。単元や題材のまとまりの中で、子供たちの学びがこれらを満たすものになっているか、それぞれの内容と相互のバランスに配慮しながら、学びの状況を把握し、改善していくことが求められている。今後各部会においても、さらに実践的な研究を深めていただきたい。

イ 社会に開かれた教育課程を実現するためのカリキュラム・マネジメントの確立

新学習指導要領の前文に述べられているように、これからの教育においては、社会に開かれた教育課程の実現が重要である。そのためには各学校において、子供の実態や地域の実情を踏まえ、学校教育目標の実現に向けて、教育課程を編成するカリキュラム・マネジメントをいかに進めるかが鍵となる。特に学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や現代的な諸課題に対応して決められる資質・能力の育成のためには、教科等横断的な学習を充実する必要があることや、「主体的・対話的で深い学び」の充実には単元などの授業のまとまりの中で、習得・活用・探究のバランスを工夫することが必要であるとされている。学校全体として教育内容や時間の適切な配分、必要な人的・物的体制の確保、実施状況に基づく改善などを通して、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを確立することが求められている。

各学校においては、保護者や地域の声に耳を傾けながら、学校のグランドデザインを教職員全体で考え、教育目標を含め、「生きる力」が求める豊かな人間性、健康・体力、確かな学力を全教職員が理解することが重要である。そして、具体化された資質・能力が実際の授業や教育活動の中で育成されたかをチェックし、その改善・充実の好循環が図られるようにする。こうして、全教職員で特色ある魅力的な教育課程を創り出していくことが期待される。

ウ 一人一人に応じた指導と評価の改善

指導と評価は一体のものである。新学習指導要領において、各教科等の目標が資質・能力の3つの柱で再整理されたことを受け、観点別学習状況の評価も「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理された。このような評価ではテスト結

果だけではない多面的・多角的な評価を行うことが必要となる。一人一人に応じた指導や評価をするためには、一人一人について十分な理解が必要である。多様な情報を生かしながら一人一人の理解に努め、それを授業の改善に役立てていきたいものである。

さらには、授業改善にとどまらず、子供が主体的に学び続けるためにも、教師による評価の情報を子供の指導に活用したい。子供が自ら学ぶためには自分がこれまでどのように学び、何を学んだかという振り返りが重要となる。その際、教師によるこれまでの評価の情報を子供に知らせることで、子供自身が今後のめあてや学び方を考える参考にすることができるようになる。教師には、その子供が自ら学び続けるために必要な力を見取り、評価することが必要となる。

エ 学び続ける教職員

我々教職員には、教職に対する強い情熱、教育専門職としての確かな力量、そして総合的な人間力等、実に多くの資質・能力が求められている。また、教育は時代の要請に応えるべく、その使命を担っている。目の前の子供への深い愛情を基盤に、絶えず学び続け自分を高めていくことができるような教職員でありたい。

特に働き方改革や教職員の世代交代による教育技術の伝承等は、喫緊の課題でもある。現在、各学校や各部会で行われている研究が、教師の力量形成や学校の改革等につながっているのかを改めて問い直し、そのあり方や方法も含め見直していくことは、学校現場からの大きな教育改革となる。

その意味でも本研究会が果たすべき役割は大きい。各部会がこれまで取り組んできた教育実践の蓄積や研究方法を継承しつつ、新しい時代に応じた研究を通して、教職員が互いに学び合い、学び続けることで、これまでの学校教育をさらに発展させることができる。互いの実践や意見を進んで研究会の場で出し合い、切磋琢磨することにより、優れた指導方法等を開発・共有していきたいものである。

⑤ 研究を進めていく上での基本的な態度

- ア 教師一人一人の自主性を尊重し、会員個人の積極的な研究に基盤を置き、共同研究によってさらに深める。
- イ 共同研究においては、特に校内研修に重点をおき、それを郡市研究、県統一研究大会へと積み上げていく。
- ウ 小教研全体主題と各部会の研究主題との結びつきを考慮して研究を推進する。

⑥ 研究の進め方

- ア 小教研は、徳島県小学校教育の当面する教育課題の解決のため、全体主題を設定し、県内各小学校における教育活動や授業実践を通してその解決の方策を研究する。
- イ 各部会（教科等）は、その特性に即した研究主題を設定し、研究の内容や視点を明らかにして、共通理解の下に組織的・系統的に研究を進め、成果の累積を図る。
- ウ 各会員は、研究主題に即した日常の実践や研究の成果をもちより、共同研究の実をあげる。

(2) 運 営

① 基本方針

- ア 会員の自主的な研究を尊重するとともに、一人一人が研究のねらい、方法、分担等を明確に

把握し、組織的、効率的な研究が行われるようにする。

イ 共同研修においては、校内研修に重点を置きながら、都市研究、部会研究との関連を明らかにして研修を進める。

ウ 研究会を効果的に運営することにより、意欲を高め研究の活性化を図る。

エ 共同研修に関する行事や会合を精選し、運営の効率化を図ることにより授業日数・授業時数の確保に努める。

オ 教育委員会、研究諸機関、諸団体との密接な連携の下に研究を進める。

② 研究会の開催

ア 小教研の研究は2年計画で実施し、主題の設定にあたっては、主題研究大会を開いて研究の視点を設定する。

イ 部会研究は、A分野の研究大会は、1年次に都市研究大会、2年次に全県的な統一大会を開催すること、B分野の研究大会は、それぞれの部会で検討し開催することとする。

ウ 都市小教研は、研究の範囲を制限するなど都市の実情に応じて研修を進め、研究会を開催する。

エ 県統一研究大会や各部会の都市研究大会は、各ブロックや各都市が会場を交代して開催する。

③ 具体的内容

ア 各部会は、2年間を見通した研究計画を作成し、都市と県の研究が関連を保ち、系統的に積み重ねられ、充実したものになるよう工夫する。（研究成果は、原則として毎年刊行する。）

イ 都市小教研は、研究の分野を焦点化するなど、都市の実情に応じて適切な工夫を加えて特色ある研修を行い、研究会を開催する。

特に、県統一研究大会の開催が予定されている教科等については、都市をあげて重点的に取り組み、当該部会本部との連携を密にして研究を進める。

ウ 都市研究大会、県統一研究大会における研究授業者は、原則として会場校で担当する。少なくとも児童を輸送することはないようにする。

エ 事前研究のために、授業を犠牲にしての出張はできるだけ自粛する。特に、運営のための打ち合わせ等は、参加者の厳選や文書、電話による連絡などの方法を取り、出張を最小限度にとどめるよう工夫する。

オ 研究活動全般を通じて、研修の実質的な効果を上げることを旨とし、従来の慣習を再検討して簡素化を図る。

④ そ の 他

ア 各部会の研究成果については、各部会本部が総括して研究集録等を刊行するものとし、都市部会（会場校）は、原則として研究資料を作成しないものとする。

イ 各部会は、後継者の育成、新人の発掘、あるいは大会参加者の教職経験や研修歴の多寡によって生ずる質的な格差に対応できる組織的な運営を工夫する。

ウ 県大会における司会者、研究発表者等については、各部会の実情を考慮して決める。

5 令和2年度 徳島県小学校教育研究会 研究主題

(1) 全体 研究主題

自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進
 ― 主体的・対話的で深い学びを通して 生涯にわたって学び続ける力を身に付けた子供の育成 ―

(2) 部会 研究主題

部 会 名		研 究 主 題
1	校 長 研 修 会	自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進 ～郷土を愛し、他者と協働しながら豊かな未来社会を創る子どもの育成～
2	教 頭 研 修 会	未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり ～郷土を愛し 郷土とのかかわりを深め 未来を切り拓いていく人財の育成～
3	国 語 部 会	一人一人が学びを深める国語科学習指導 ― 言葉による見方・考え方を働かせ、考えを形成し、共有する単元の構想と展開 ―
4	書 写 部 会	文字を大切にし、生きる力を育む書写学習 ― 主体的・対話的で深い学びをめざして ―
5	社 会 部 会	未来に向けて考え続け、よりよい社会を切り拓く子供が育つ授業の創造 ― 見方・考え方を働かせて、社会に対する認識と判断する力を育む単元構想と授業展開 ―
6	算 数 部 会	深い学びの実現に向けた算数科授業の在り方
7	理 科 部 会	問題を科学的に解決するために必要な資質・能力が育つ理科教育 ― 理科の見方・考え方を働かせ、主体的な問題解決を行う理科学習 ―
8	生 活 部 会	ふるさとを愛し、豊かな生活を創り出す子供の育成 ― 身近な生活に根ざした体験活動を通して ―
9	音 楽 部 会	伝え合おう 音と心のハーモニー ～ともに関わり 分かち合い 心に響く音楽学習～
10	図 画 工 作 部 会	豊かにかかわり つながり 自らつくりだす造形活動 ― 学びを生かし、表現する喜びが共に感じられる授業づくり ―
11	家 庭 部 会	自らよりよい生活を創り出そうとする子供の育成 ― 学びの質を高める家庭科学習 ―
12	体 育 部 会	豊かな学びが 子供の未来をつくる 体育学習 ― 「おもしろいコト」の共有から学びをスタートすることにより、豊かな学びへと続く授業づくり ―
13	道 徳 部 会	語り合い深め合う学びを通して、自己の生き方を考える子供を育てる道徳教育 ～子供が輝く 子供と創る 道徳科の授業～
14	特 別 活 動 部 会	自主的、実践的な集団活動を通して、互いのよさを生かし、よりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育てる特別活動
15	総 合 部 会	自己の生き方を考えていく資質・能力の育成を目指して ～主体的・協働的に取り組む探究的な学習の充実～
16	外国語部会	コミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力を育む小学校外国語教育
17	養 護 部 会	未来を拓く心と体を育む健康教育
18	情 報 教 育 部 会	未来社会を生き抜く資質・能力の育成を目指した授業の創造 ― 各教科等における I C T を効果的に活用した学びについて ―
19	生 徒 指 導 部 会	子どもたちが集団の一員として自己実現をめざす生徒指導 ～ 「自分」「集団」「学び」に視点をあてた自己指導能力の育成～
20	食 育 部 会	「生きる力」を育む食育の推進

6 令和2年度 徳島県小学校教育研究会 事業計画

(1) 研 究 大 会

番号	部会名	実施予定 年 月 日	場 所	実施予定内容	参加 者数	発表 者数	予定講師職・氏名
1	校長 研修	令和2年4月21日	県教育会館	県小学校長総会・研修会	166名	5名	徳島新聞NIE・NIB推進室 NIEコーディネーター 野口 幸司氏 徳島県公安委員会委員長 鳴門教育大学大学院 教授 藤井伊佐子氏
		6月26日	県教育会館	四国地区小学校長教育研究大会徳島大会・県小学校長研究協議会（分科会）	166名		
		10月29日 ～30日	京都府京都市	全国小学校長会研究協議会（京都大会）	17名		
2	教頭 研修	令和2年11月18日	県教育会館	第54回徳島県小中学校教頭会研究大会	300名	なし	学校マネジメントコンサル タント・教育研究家 妹尾 昌俊氏
3	国 語	令和2年 未 定	那賀町立 鷺敷小学校	第31回徳島県小学校国語教壇研修 大会	250名 (予定)	未定	未 定
		令和2年11月19日	徳島市 千松小学校	徳島市・名東郡小学校国語教育研究 大会	未定	未定	未 定
4	書 写	令和2年11月19日	徳島市 渋野小学校	徳島市・名東郡小学校書写教育研究 大会	未定	未定	未 定
5	社 会	令和2年10月29日	板野町立 板野東小学校	研究主題について授業研究会をも ち、研究を深める。	未定	なし	未 定
6	算 数	令和2年11月12日	阿南市 富岡小学校	第73回徳島県小学校算数教育研究大会 研究主題をもとに研究授業を公開し授 業研究会を通して主題の解明に迫る。	50名	なし	未 定
7	理 科	令和2年11月12日 (中 止)	美馬市 美馬小学校	第67回小学校理科教育研究大会 美馬市・美馬郡大会 問題を科学的に解決するために必要 な資質・能力が育つ理科教育 —理科の見方・考え方を働かせ、主 体的な問題解決を行う理科学習— 子どもが理科の見方・考え方を意 識的に働かせながら主体的な問題解 決を行う中で、問題を科学的に解決 するために必要な資質・能力の育成 をめざし研究を進め、授業実践を提 案する。	100名 程度		
8	生 活	令和2年 6月～11月	各 郡 市	研究主題「ふるさとを愛し、豊かな 生活を創り出す子供の育成 —身近 な生活に根ざした体験活動を通して —」について授業研究会通して、研 究を深める。	未定	未定	未 定
		令和2年 11月19日	徳島市 加茂名南小学校	徳島市小学校生活科研究会	40名	未定	未 定

番号	部会名	実施予定年 月 日	場 所	実 施 予 定 内 容	参加者数	発表者数	予定講師職・氏名
9	音 楽	令和2年 6月～12月	各 郡 市	研究主題「伝え合おう音と心のハーモニー ～ともに関わり 分かち合い心に響く音楽学習～」のもとに、研究授業・提案発表等を通して、主題についての研究を深める。	未定	未定	未 定
		令和2年11月 5日	阿 波 市 市 場 小 学 校	阿波市小学校音楽教育研究大会	未定	未定	未 定
10	図画工作	令和2年11月12日	小 松 島 市 児 安 小 学 校	徳島県図画工作教育研究大会 (研究授業・授業研究会を行い、研究を深める)	未定	未定	未 定
11	家庭	令和2年 6月～12月	各 郡 市 会 場	研究主題「自らよりよい生活を創り出そうとする子供の育成」について授業研究会を通して研究を深める。	未定	未定	未 定
12	体 育	令和2年11月26日	吉 野 川 市 高 越 小 学 校	第62回徳島県小学校体育科教育研究大会ブレ大会 研究主題解明に向け、研究授業や研究協議等を行う。	未定	未定	未 定
13	道 徳	未 定	各 郡 市 会 場	研究主題解明に向け、研究授業及び提案発表・研究協議等を行う。	未定	未定	県内講師（未定）
14	特別活動	令和2年11月20日	板 野 郡 神 宅 小 学 校	研究主題解明に向けて、研究授業、提案発表、研究協議、講演等を行う。	未定	未定	総合教育センター 指導主事
15	総 合	令和2年11月19日	徳 島 市 加茂名南小学校	研究主題「自己の生き方を考えていく資質・能力の育成を目指して～主体的・協働的に取り組む探究的な学習の充実～」のもとに、研究授業ならびに研究協議を行う。	未定	未定	未 定
16	外国語	令和2年11月 6日	鳴 門 市 板 東 小 学 校	徳島県小学校外国語研究会 鳴門市大会 研究主題解明に向けて研究授業、研究協議、講演を行う。	未定	なし	文部科学省 初等中等教育局 視学官 直山木綿子 先生
17	養 護	令和2年11月27日	阿 南 市 文 化 会 館	徳島県小学校健康教育研究大会 研究発表、提案発表、ポスター発表、講演会を実施し研究を深める。	180名	12名	静岡大学教育学部 准教授 赤田 信一 先生
18	情報教育	令和2年11月13日	徳 島 市 福 島 小 学 校	第 50 回小学校放送・情報教育研究会	150名	なし	未 定
19	生徒指導	令和2年11月20日	県 教 育 会 館	第 18 回小学校教育生徒指導研究大会 研究主題解明に向けて、提案発表、研究協議、講演等を行う。	100名	3名	未 定
20	食 育	令和2年10月30日	県 教 育 会 館	第 8 回徳島県小学校食育研究大会 研究主題解明に向け、実践発表・研究協議・講演等を実施して研究を深める。	150名	3名	東北大学大学院 准教授 都築 毅 先生

(2) 研 究 調 査

番号	部会名	実施予定 年 月 日	場 所	実施予定内容	参加 者数	発表 者数	予定講師職・氏名
1	校長 研修	令和2年4月21日 6月26日 8月24日 令和3年1月6日	県教育会館	研究主題並びに研究の進め方について共通理解を図り、研究の方向付けをする。 また、研究成果をまとめる。	18名 18名 18名 18名		
2	教頭 研修	令和2年5月20日	県教育会館	本年度の研究主題ならびに研究の進め方についての共通理解を図り、研究の方向付けをする。	300名	なし	認定NPO法人 テラ・ルネッサンス 創設者・理事 鬼丸 昌也 氏
3	国 語	令和2年5月 令和3年1月 2月	附属小学校 附属小学校 附属小学校	研究主題について共通理解を図る。 次年度の研究主題について討議する。 次年度の研究主題について討議する。	40名 30名 30名	1名 1名 1名	総合教育センター 指導主事 総合教育センター 指導主事
4	書 写	令和2年5月 8月 令和3年1月 1月	未定 四国大学 県教育会館 県教育会館	研究主題についての共通理解を図り、研究内容と方法の具体化について検討する。 小・中・高・大の研究発表を聞き、書写教育について共通理解を図る。 「書写教育」の編集を行う。 次年度の研究主題について検討する。	40名 80名 20名 25名	1名 3名 1名	未定 未定
5	社 会	令和2年8月7日	ホテルメント徳島	徳島県・徳島市・名東郡・板野郡社会部会合同夏季研修会	未定	なし	文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 小倉 勝登 先生
6	算 数	令和2年6月9日 8月18日	県教育会館 県教育会館	研究主題・内容・方法について共通理解を図り、研究協議をする。 主題に関わる講演・講義をし、主題の解明に迫る。	80名 140名	1名 4名	総合教育センター 指導主事 未定
7	理 科	令和2年4月 4月～12月 7月末～8月中旬 (中止) 令和2年12月～ 令和3年1月	美馬小学校 美馬小学校 附属小学校	主題研修 主題検討 校内研修・授業研究会等 夏季研修会 次年度 研究計画 検討、協議	30名 30名 70名 40名	未定	未定
8	生 活	令和2年5月 8月 令和3年1月	未定 未定 未定	研究主題の共通理解と研究内容、研究方法の研究協議 生活科教育研究会 (夏季研修会) 次年度研究主題についての討議	30名 50名 30名	1名 未定 1名	徳島県教育委員会 学校教育課 指導主事 未定 徳島県教育委員会 学校教育課 指導主事

番号	部会名	実施予定 年 月 日	場 所	実施予定内容	参加 者数	発表 者数	予定講師職・氏名
9	音 楽	令和2年 5月	徳 島 市	研究主題の共通理解と研修計画と組織の編成	30名	1名	県内講師
		6月	徳 島 市	音楽教育研修会	80名		未 定
		8月	徳 島 市	音楽教育研修会	80名		未 定
		12月	徳 島 市	ワーク等の検討と編集	20名		未 定
		令和3年 1月	徳 島 市	次年度研究主題についての討議	20名	1名	県内講師
10	図画 工作	令和2年 8月20日	徳島県立総合 教育センター	図画工作・美術実技講座 「段ボールを素材とする立体表現」	20名	なし	池坊短期大学 教授 岩野 勝人 先生
11	家 庭	令和2年 5月	未 定	研究主題の共通理解と研究計画	30名	1名	総合教育センター 指導主事
		7月	未 定	郡市部長・研究員会 テスト・ワーク編集	50名		未 定
		8月	未 定	テスト・ワーク編集	50名		未 定
		12月	未 定	研究主題の検討・立案	20名	1名	総合教育センター 指導主事
		令和3年 2月	未 定	次年度の研究主題の共通理解	30名	1名	総合教育センター 指導主事
12	体 育	令和2年 7月31日	三 好 市 池田町民体育館	第66回徳島県体育指導者講習会 主題解明に向けての授業案検討	120名	未定	未 定
		令和3年 1月	未 定	次年度研究主題検討	40名	1名	未 定
13	道 徳	令和2年 7月31日	県 教 育 会 館	研究主題「資料の見方と指導の構想」のもと、学年ごとに分かれて指導案の検討、資料分析等を行い、研究を深める。	50名	未定	指導主事
14	特 別 活 動	令和2年 5月29日	県 教 育 会 館	研究主題の共通理解と研究内容、研究方法について協議を行う。	70名	1名	総合教育センター 指導主事
		8月 7日	県 教 育 会 館	研究主題解明に向けて、提案発表、研究協議、講演、実技研修等を行う。	130名	4名	文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 安部 恭子 先生
		1月18日	県 教 育 会 館	次年度研究主題について協議を行う。	30名	1名	総合教育センター 指導主事
15	総 合	令和2年 5月	徳 島 市	研究主題・研究内容・研究方法について共通理解を図る。	40名	1名	未 定
		8月	未 定	夏季研修会	70名	未定	未 定
		令和3年 1月	徳 島 市	次年度研究主題についての検討	40名	1名	県教育委員会学校教育課 指導主事
16	外 国 語	令和2年 8月 5日	ふれあい健康館	研究主題解明に向けて、夏季研修会を行う。	100名	なし	文部科学省 初等中等教育局 視学官 直山木綿子 先生
17	養 護	令和2年 5月	徳 島 市	研究主題について、共通理解を図る	35名	未定	未 定
		8月 6日	阿 南 市 文化会館	小学校養護教諭研修会	180名	未定	未 定
		12月	徳 島 市	次年度の研究主題について討議	35名	1名	

番号	部会 名	実 施 予 定 年 月 日	場 所	実 施 予 定 内 容	参加 者数	発表 者数	予定講師職・氏名
18	情 報 教 育	令和2年 5月19日	県 教 育 会 館 アスティとくしま	研究主題の共通理解と研究計画検討	30名	1名	未 定 未 定 未 定
		8月		第47回小学校放送・情報教育特別研修会	80名	未定	
		令和3年 1月26日	県 教 育 会 館	次年度研究主題についての検討	30名	1名	
19	生 徒 指 導	令和2年 6月 3日	県 教 育 会 館	研究主題の共通理解と研究計画	30名		鳴門教育大学 教職大学院 准教授 池田 誠喜 氏
		令和3年 1月	県 教 育 会 館	次年度研究主題についての討議	30名	1名	
20	食 育	令和3年 1月	徳 島 市	次年度研究課題について検討	35名	1名	県教育委員会体育学校 安全課 指導主事 県総合教育センター 指導主事

(3) 研究成果刊行

番号	部会名	名 称	規 格 (判・頁)	売・非 売の別	発 行 部 数	頒 布 先
1	校長研修 部 会	令和2年度 研究集録 第45集	A4	非売	210部	県内構成会員及び教育関係機関
2	教頭研修 部 会	研究集録 第54集	A4 50頁	〃	320部	構成部員及び教育関係機関
3	国語部会	令和2年度 研究集録	B5 100頁	〃	350部	構成部員及び一般
4	書写部会	「書写教育」 第56集	A4 100頁	〃	400部	構成部員及び一般
5	社会部会	社会科 No.110	A4 130頁	〃	500部	構成部員及び一般
6	算数部会	算数徳島 第64号	A4 80頁	〃	200部	県内各小学校
7	理科部会	令和2年度 小教研理科部会 研究集録	A4 100頁	〃	250部	県内各小学校 各郡市理事 他
8	生活部会	令和2年度研究集録 第31号	A4 47頁	〃	250部	県内各小学校及び研究機関
9	音楽部会	「とくしま音楽教育」 第60号	A4 80頁	〃	250部	構成員及び一般
10	図画工作 部 会	研究集録 (第57集)	A4 45頁	〃	250部	構成員及び一般
11	家庭部会	家庭部会研究集録 (第58集)	A4 52頁	〃	330部	県内各小学校及び研究機関
12	体育部会	第62集 研究紀要	A4 120頁	〃	400部	構成部員及び一般
13	道徳部会	「徳島の道徳」 第47集	A4 120頁	〃	300部	構成員及び一般
14	特別活動 部 会	「特活」 第64集	A4 100頁	〃	250部	県内各小学校及び研究機関
15	総合部会	実践資料集 「TOKUSHIMA総合」20号	CD版 69頁	〃	200部	県内各小学校及び関係者
16	外国語 部 会	外国語 研究集録 Step 第10号	A4	〃	250部	県内全小学校及び関係機関
17	養護部会	研究機関誌「あしあと」66号	A4 100頁	〃	200部	構成員
18	情報教育 部 会	「徳島放送情報教育」 Vol.62	A4	〃	200部	構成員及び一般
19	生徒指導 部 会	令和2年度 徳島県小学校生徒指導研究集録 第37号	A4 60頁	〃	230部	県内各小学校及び関係者
20	食育部会	青竹 第19集	A4 100頁	〃	300部	県内各小学校及び構成員

7 平成30年度・令和元年度決算・令和2年度予算案

(1) 収入の部

(円)

項 目	平成30年度決算			令和元年度決算			令和2年度予算		
学 校 会 費	2,000	166	332,000	2,000	166	332,000	2,000	166	332,000
会 員 会 費	2,400	2,838	6,810,000	2,400	2,828	6,780,000	2,400	2,730	6,552,000
補助・雑収入	0	0	6	0	0	5	0	0	未定
合 計	円	校数/人数	7,142,006	円	校数/人数	7,112,005	円	校数/人数	6,884,000

H30/R2 (収入 - 258,006)

(2) 支出の部

① 事業別支出

(円)

項 目	平成30年度決算			令和元年度決算			令和2年度予算		
研 究 大 会 費	2,148,000			2,325,000			2,085,000		
研 究 調 査 費	1,169,006			1,210,000			1,095,000		
研 究 成 果 刊 行 物	3,125,000			2,797,005			2,924,000		
郡 市 補 助 金	700,000			780,000			780,000		
合 計	7,142,006			7,112,005			6,884,000		

② 部会別支出

(円)

番号	部 会 名	平成30年度決算			令和元年度決算			令和2年度予算		
1	校長研修部会			280,000			260,000			260,000
2	教頭研修部会			280,000			260,000			260,000
3	国 語 部 会			280,000	統一大会		300,000			260,000
4	書 写 部 会			280,000	統一大会	四国大会	340,000			260,000
5	社 会 部 会		四国大会	320,000	統一大会		300,000			260,000
6	算 数 部 会			280,000	統一大会		300,000			260,000
7	理 科 部 会			280,000	統一大会		300,000			260,000
8	生 活 部 会			280,000	統一大会		300,000			260,000
9	音 楽 部 会			280,000	統一大会	中四大会	340,000			260,000
10	図画工作部会			280,000	統一大会		300,000			260,000
11	家 庭 部 会			280,000	統一大会		300,000			260,000
12	体 育 部 会			280,000	統一大会	中四大会	340,000			260,000
13	道 徳 部 会			280,000	統一大会		300,000			260,000
14	特別活動部会			280,000	統一大会	四国大会	340,000			260,000
15	総 合 部 会			280,000	統一大会		300,000			260,000
16	外国語部会			280,000	統一大会		300,000			260,000
17	養 護 部 会	研究会・大会		320,000			260,000	研究会・大会		300,000
18	情報教育部会	研究会・大会		320,000			260,000	研究会・大会		300,000
19	生徒指導部会	研究会・大会		320,000			260,000	研究会・大会		300,000
20	食 育 部 会	研究会・大会		320,000			260,000	研究会・大会		300,000
	部 会 小 計			5,800,000			5,920,000			5,360,000
21	郡 市 助 成			700,000			780,000			780,000
22	本 部			642,006			412,005			744,000
	合 計	(40,000)	(40,000)	7,142,006	(40,000)	(40,000)	7,112,005	(40,000)	(40,000)	6,884,000

③ 郡市の R 1 会費納入と補助金配分 ※ R 2 年度は会員数が確定後、積算基礎により再配分される。(円)

番号	郡 市 名	会費納入額	会 員 数	H 30/R 1 / R 2 補助金配分比較		
				平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
1	徳島市・名東郡	1,957,600	* 790	100,000	100,000	100,000
2	鳴 門 市	548,660	218	50,000	70,000	70,000
3	小 松 島 市	398,260	157	50,000	50,000	50,000
4	阿 南 市	800,660	* 316	70,000	70,000	70,000
5	勝 浦 郡	89,460	35	30,000	50,000	50,000
6	名 西 郡	299,600	119	50,000	50,000	50,000
7	那 賀 郡	103,460	40	50,000	50,000	50,000
8	海 部 郡	212,660	83	30,000	50,000	50,000
9	板 野 郡	955,060	384	70,000	70,000	70,000
10	阿 波 市	372,584	147	50,000	50,000	50,000
11	吉 野 川 市	415,060	164	50,000	50,000	50,000
12	美馬市・美馬郡	365,428	* 144	50,000	50,000	50,000
13	三好市・三好郡	513,060	* 200	50,000	70,000	70,000
	食育部会(小除く)	73,860	31			
	合 計	7,105,412	2,828	700,000	780,000	780,000

* 兼務者も 1 としてカウントしています。

監査の結果、その処理が適切かつ正確であることを認めます。

令和 2 年 3 月 24 日

監 事 渡 邊 壽 万 ㊟
印字省略
監 事 町 口 美千代 ㊟
印字省略

(3) 予算配分の積算基礎

- ① 平成 14 年度から、「各郡市補助」の項目を設ける。各郡市基本補助は一律 2 万円とし、その上に、各郡市の会員数によって補助金を次のように 4 段階で配分する。

会 員 数 (人)	～ 100	101 ～ 300	301 ～ 500	501 ～
配 分 額 (円)	10,000	30,000	50,000	80,000

- ② 平成 31 年度から補助金を、次の 3 段階に変更する。

会 員 数 (人)	～ 200	201 ～ 500	501 ～
配 分 額 (円)	30,000	50,000	80,000

- ③ 四国大会、中四国大会、全国大会が統一大会と併せて開催される部会に、多く配分する。
 ④ 会員数により、収入額に大きな変動が生じた場合、配分額は運営委員会で協議する。
 ⑤ 当該年度に統一大会（A 分野）および研究大会（B 分野）がある部会は、多く配分する。
 ⑥ 平成 25 年度からは、すべての部会に同等配分とする。

8 会費集金と納入について

(1) 会費の金額と集金の範囲

① 会 員 会 費 2,400円（一人当たり）

a 納金する人

徳島県国・公立小学校現場勤務の校長及び定数内（標準＋加配）教員

※養護教諭，栄養教諭・学校栄養職員（栄養教諭・学校栄養職員で小学校籍以外の会員は，食育部会で集金）を含む。

※産休・育休・病休等の補充・代替教員については，休暇・休業・休職等を取得している教員と合わせて会員数1と数える。会費の徴収については各校で判断・調整する。

※小中兼務の場合は0.5人分とする。

b 納金する必要のない人

ア 事務職員

イ 年度途中からの加配教員

ウ 鳴門教育大学・埋文・総合教育センター・長社研等への派遣教員

エ 市町村費教員

オ 非常勤教員

カ 再任用でフルタイム勤務でない教員

※会員以外が統一大会に参加する場合は，参加費1,000円を会場校に支払う。

② 学 校 会 費 2,000円（1校当たり）（分校は不要）

(2) 会費納入期日 6月19日（金）まで

(3) 会 費 の 集 金

郡・市理事（研修係校長）は会費を各小学校より納金があると，その小学校長宛「領収書」を発行する。

(4) 集金された会費の納入方法

集金された会費は，阿波銀行の本店・支店を通して「阿波銀行 国府支店」徳島県小学校教育研究会の口座に振り込む。

① 口座番号 店番号 401 口座番号 1062645

② 口 座 名 徳島県小学校教育研究会 会長 今 川 仁 史

(5) 納金後の処理方法

当小教研の口座に会費が振り込まれると，阿波銀行は振り込みの証^{あかし}として「副報」を発行する。この副報とともに，当小教研への「会費納入票」に会費の明細を記入の上，適当な方法で「県小教研事務局」あて送付する。

(6) 領収書の送付

上記の副報と「会費納入票」が事務局に到着したら，おり返しその郡市理事宛の「領収証」を送付する。

9 小教研会計事務処理について

(1) 予算報告書、決算報告書について

各部の幹事は、事業別予算書（決算書）についての報告を、次の形式により定められた期日までに各項目（研究大会費、研究調査費、研究成果刊行費）に分けて事務局まで報告する。

ア 研究大会費とは……………研究大会に要する（した）費用

（例） 謝金 旅費 借用損料 資料費 会議費 通信運搬費 消耗品費 など

イ 研究調査費とは……………研究に要する（した）費用

（例） 謝金 旅費 借用損料 資料費 会議費 通信運搬費 消耗品費 など

ウ 研究成果刊行費とは……………刊行に要する（した）費用

（例） 資料費 通信運搬費 会議費 消耗品費 など

① 予算報告書（用紙A4）形式

予 算 報 告 書	
徳島県小学校教育研究会会長殿	
令和 年度の（ ）部会の助成にかかる予算額は次のとおりです。	
予算総額	円
予 算 内 訳	金 額（円）
研 究 大 会 費	
研 究 調 査 費	
研 究 成 果 刊 行 費	
令和 年 月 日	
○○部会長（	印）

② 決算報告書（用紙A4）形式

決 算 報 告 書			
徳島県小学校教育研究会会長殿			
令和 年度の（ ）部会の助成金にかかる決算額は次のとおりです。			
支出総額		円	
予 算 内 訳	予 算	決 算	増 減
研 究 大 会 費			
研 究 調 査 費			
研 究 成 果 刊 行 費			
令和 年 月 日			
○○部会長（ 印）			
なお、領収書及び関係書類は（○○小学校（校長・教頭・教諭）○○が保管しています。			

(2) 帳簿の整理と帳簿のコピーの送付について

帳簿の提出は15年度から取りやめた。その代わりに帳簿のコピーの提出をお願いしている。

- ① 研究大会費，研究調査費，研究成果刊行費と別々の3葉に記載し帳簿の処理をする。
- ② 右上に部会名を必ず明記しておいてください。
- ③ 年度末に帳簿をコピーして県の事務局に提出する。

研究大会費（例）

校長部会

	収 入	支 出	残 高
本 年 度 予 算	100,000		100,000
会 場 校 補 助		50,000	50,000
講 師 謝 礼		50,000	0
決 算	100,000	100,000	0

10 徳島県小学校教育研究会の運営について

(1) 平成 28 年度まで

平成 15 年 3 月 3 日（月）の小教研運営委員会において、「平成 18 年度以降の統一大会について」協議した結果、次のようになった。各郡市・各部会で今後の計画・運営を考える。

① A 分野と B 分野について

- a A 分野は、国語・社会・算数・理科・生活・音楽・図画工作・家庭・体育・道徳・特別活動の 11 部会とする。
- b B 分野は、書写・養護・情報教育・生徒指導・総合・食育・外国語活動の 7 部会とする。

② A 分野と B 分野の開催

a A 分野の開催について

- ア 期日は、原則として 11 月の第 3 金曜日にする。期日については、運営委員会において決定する。日程等は、各部会・各会場校で協議・相談の上決めるが、終日の日程を考える。
- イ 授業は必ず行う。その時、各学年 1 学級以上の公開を原則とする。これは、会員数の関係による。ただし、教科の学年、特別な事情によっては、学年は問わない。また、特別支援学級の公開授業も出来るだけ実施する。
- ウ 研究発表・授業研究会を実施する。
- エ 県下臨時休校にして、原則として会員全員が、各研究会場に参加する。
- オ 原則として、各郡市会員数の最低、3～5 % ずつを各部会へ割り振るものとする。参加人数の詳細については、運営委員会・常任委員会で協議する。

b B 分野の開催について

- ア 臨時休校にはしない。期日・日時等は各部会が小教研本部と相談して決定する。原則として、1 日開催とする。部会によっては、半日開催も可。
- イ 原則として、公開授業を実施する。その場合、各学年 1 学級以上の公開授業をする。ただし、部会によっては、この限りではない。
- ウ 部会によっては、出席者が少なくなるおそれがあるので、参加人数は相談の上、各郡市に割り当てる。

③ そ の 他

- a この研究大会と全国・中四国・四国大会と兼ねることができる。その場合は、統一大会と郡市・教科等が一致する時に限る。つまり、25 年度四国大会、26 年度統一大会の時は、2 年連続して大会を実施する。前倒しとか、前年四国大会をしたので、本年度は統一大会をしないということとは避ける。開催年度等詳細については、運営委員会・常任委員会で協議する。
- b 会場校は、研究紀要等の冊子を作成しない。
- c 各部会は、県小教研の方針に従って活動するものとする。
- d 統一大会の前年度の郡市大会・ブロック別大会の持ち方については、原則として各部会で計画し運営する。
- e 統一大会等の会場校が大規模校のみに限定されることのないよう、各郡市・ブロック・各教科等で協議し、会場校を複数組み合わせるなどして運営上の工夫を図る。
- f 統廃合等による学校数の減少により、統一大会の開催が困難な状況が生じた場合、平成 29 年以降のブロック別・教科等の割り振りを検討し直すことがある。

(2) 部会の新設・統廃合等について（平成 18 年度以降平成 28 年度まで）

このことについては、諮問委員会の答申（平成 21 年 10 月 20 日）を受け、平成 21 年 12 月 1 日の運営委員会において、次のように決定する。

- ① 特別支援教育部会は、現時点では新設しない。
- ② 外国語活動部会を B 分野に新設する。設置計画は次の通りとする。
 - a 平成 22 年度、各郡市から選出された外国語活動部会係校長等による準備委員会を設置して組織作りを行う。主題研究大会に参加し、平成 23 年度の研究主題を設定する。必要経費は本部会計から支出する。
 - b 平成 23 年度、外国語活動部会を設置する。同年度から県レベルの部会研究会を開催し、研究物の作成・配布を行う。主題研究大会に参加し、次年度の研究主題設定を行う。部会への分配金は他の部会の半額程度とする。
 - c 平成 25 年度以降の統一研究大会ローテーションに組み入れる。分配金は他の部会と同等とする。
- ③ 会費の値上げは行わない。
- ④ 統計教育部会は平成 24 年度末をもって廃止する。
- ⑤ 予算の配分について、平成 25 年度からはすべての部会に同等に配分する。
- ⑥ 将来、部会の統廃合等の課題が生じた場合、次のように取り扱うよう申し合わせる。
 - a 小教研の目的に照らして、すべての部会を対象として検討を行う。
 - b 対象となる部会については、事前に意見聴取を行う。

(3) 平成 29 年度以降（平成 25 年 12 月 6 日の諮問委員会答申を受けて）

このことについては、(2)⑥に則り、次のように決定した。

- ① 教科・一般部会の統廃合について→答申の通り
 - ア 「教科・一般部会の統廃合」は行わない。「教科・一般部会の整理」と「統一大会のもち方」を工夫、改善する。このことにより、現在 18 の統一大会の開催数を 14 に減らす。
 - イ 「教科・一般部会の整理」として、A 分野は学習指導要領に位置づけられ、今後も研究を進めていくべき教科や領域等とし、次のように整理する。

徳島県小学校教育研究会は、次の部会をもって組織する。

 - 1) A 分野 14 部会（学習指導要領に位置づけられた教科や領域等）

国語、書写、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育、道徳、特別活動、総合、外国語活動
 - 2) B 分野 6 部会（A 分野以外の一般教育部会）

校長研修、教頭研修、情報教育、養護、生徒指導、食育
 - ウ 「統一大会の持ち方の工夫・改善」として、次のように2 年に 1 回 A 分野のみ統一大会を開催する。
 - 1) A 分野は全会員対象、臨時休校、同一日開催（11 月第 3 金曜日）の統一大会。公開授業、授業研究会を行う。
 - 2) B 分野は、研究発表・講演等を行う研究大会を行う。臨時休校にはしない。期日・日時等は長期休業日などを含め、各部会が決定し、小教研運営委員会と協議して決定する。公開授業を行うことは妨げない。
 - 3) さらに、統一大会の開催数を減じる工夫として、複数校開催や合同開催を行う。
 - 4) 部会経費は、A、B 分野ともに現在の規程を適用する。

② 平成 29 年度以降のブロックおよび割り振りについて

平成 29 年度以降、4 ブロック（現在の県教委管区のブロック割り案＋吉野川市を西部に阿波市を北部に位置づける案）で組織する。現時点では、A 分野 14 部会の統一大会を開催すると考え、1 ブロックあたり 3 ～ 4 部会の統一大会を開催する。

その上で、上記内容に適した平成 29 年度以降の割り振り案を作成する。

ア 作成にあたっては、ブロックの学校数、学級数、教員数などの学校規模、統一大会の複数校開催及び合同開催の工夫を考慮して割り振り（ローテーション）を決定した。

イ また、平成 29 年度から 4 期分（8 年間）を見通した割り振り案を決定した。その際、ブロック及び割り振りを刷新した。

ウ ブロック及び割り振り等の一覧表は、次のとおりである。

③ 主題研究大会の在り方を見直し、平成 29 年度を待たず、平成 26 年度から次のように前倒し実施する。

ア 午後、半日開催とし、現行の主題提案・講演会を実施。各部会の主題作成は、それ以後、各部会ごとに別の日に開催する。

イ 実施日を 12 月第 1 金曜日（授業日）とする。

(4) 平成 30 年度以降（平成 29 年 2 月 19 日の諮問委員会答申を受けて）

平成 29 年度、次の 3 つについて諮問委員会が開かれ、平成 30 年 2 月 19 日の運営委員会です承された。

① 諮問事項 1 「令和 3 ・ 5 年度の各ブロックへの割当数の変更について」

平成 25 年の諮問委員会答申を受けて、ブロック及び割り振りを変更し、平成 29 年度から新しい 4 ブロック（各 3 ～ 4 部会開催）で 8 年間のローテーションとしてスタートしたところである。しかし、予想以上の学校数・学級数・児童数の急激な減少に伴い、特に西部ブロック・南部ブロックでは研究大会の開催が非常に困難な状況にある。

そこで、平成 29 年度の児童数・学級数・教員数などの実数を調査し、前回の諮問委員会の決定事項を活かしつつ、更に各郡市・各部会からの意見集約を図ったところ、令和 3 ・ 5 年度については、各ブロックでの部会の割当数を一部変更するという結論に至った。

＜令和 3 ・ 5 年度の各ブロックへの割当数＞

- 東部ブロック（4 ～ 5 部会）
- 北部ブロック（4 部会）
- 南部ブロック（3 部会）
- 西部ブロック（2 ～ 3 部会）

補足説明として、「複数校開催」や各部会での「発表数」の見直しが望まれるとし、さらに「ローテーション」の見直しが行われた。＜(5)参照＞

また、「合同開催・部会の統廃合」についても今後の検討課題となった。

② 諮問事項 2 「統一大会開催年度について」

令和 3 ・ 5 年度に限っては、これまでと同様に 2 年間隔の研究大会を実施する。

補足説明として、「3 年サイクル」での統一大会開催についても具体的に検討していくことが望ましいとされた。

③ 諮問事項 3 「学校数・会員数減少に伴う会費等について」

当面の間、会費・学校会費は値上げせずに現状の会費・助成金で運営する。

補足説明では、経費削減として、次のような方法が決定された。

- ・「部会研究計画」は平成30年度から各校へメールで配信する。
- ・「統一大会要項」は令和元年度から各校へメールで配信する。
- ・小教研のホームページからいずれもダウンロードできるようにする。
- ・各部会費の減額は令和元年度から行う。

(5) ブロック割の変更 令和3年度・5年度

ブ ロ ッ ク	郡 市 名	開催数	令 和 3 年 度		令 和 5 年 度	
			当 初	改 定 案	当 初	改 定 案
東 部	徳島・名東・名西	4～5	道徳 生活 総合 書写	道徳 生活 総合 書写 国語	国語 音楽 特別活動 外国語	音楽 特別活動 外国語 道徳
北 部	鳴門・板野・阿波	4	国語 音楽 特別活動 外国語	音楽 特別活動 外国語 社会	社会 算数 図画工作	算数 図画工作 国語 家庭
南 部	小松島・勝浦・ 阿南・那賀・海部	3	社会 算数 図画工作	算数 図画工作 家庭	家庭 理科 体育	理科 体育 社会
西 部	美馬・三好・吉野川	2～3	家庭 理科 体育	理科 体育	道徳 生活 総合 書写	生活 総合 書写

＜備考＞ ＊太字の部会が増え、アンダーラインの部会は減る。
 ＊生活・総合部会はR3・5年度も同一校開催とする。(H29.8運営委承認)
 ＊R6年度「道徳部会」R7年度「家庭部会」R8年度「社会部会」の全国大会開催を考慮する。

(6) 令和3年度

① 統一大会（A分野）は、次の会場・期日の予定である。

ブロック	郡 市	部 会	会 場 校	期 日（予定）
東 部	徳島市・名東郡 名 西 郡	道 徳	名 西 郡 高 原 小 学 校	R 3. 11. 19
		生 活 ・ 総 合	徳 島 市 加 茂 名 南 小 学 校	〃
		書 写	徳 島 市 渋 野 小 学 校	〃
		国 語	徳 島 市 千 松 小 学 校	〃
北 部	鳴 門 市 板 野 郡 阿 波 市	音 楽	阿 波 市 市 場 小 学 校	〃
		特 別 活 動	上 板 町 神 宅 小 学 校	〃
		外 国 語	鳴 門 市 板 東 小 学 校	〃
		社 会	板 野 町 板 野 東 小 学 校	〃

ブロック	郡 市	部 会	会 場 校	期 日 (予定)
南 部	小 松 島 市 勝 浦 郡 阿 南 市 那 賀 郡 海 部 郡	算 数	阿 南 市 富 岡 小 学 校	R 3. 11. 19
		図 画 工 作	小 松 島 市 児 安 小 学 校	"
		家 庭	那 賀 町 鷺 敷 小 学 校	"
西 部	美 馬 市・郡 三 好 市・郡 吉 野 川 市	理 科	美 馬 市 美 馬 小 学 校	"
		体 育	吉 野 川 市 高 越 小 学 校	"

② B分野の部会は統一大会は開催しないが、小教研の全体主題・各部会の研究主題を探究するための研究が推進できるよう計画し、研究活動が活発に、継続できるように運営する。

(7) 平成 29 年度～令和 6 年度割り振りローテーション表 (平成 30 年 2 月 19 日変更)

ブ ロ ッ ク	郡市名		開 催 数 (29 年 ～32年)	29 年 A	30 年 B	1 年 A	2 年 B	開 催 数 (3 年 ～6 年)	3 年 A	4 年 B	5 年 A	6 年 B
東 部	徳 名	島 東 西	3 ～ 4	社 算 図 数 工	* B 分野 研究大会 * 授業公開を妨げない	家 理 体 育	* B 分野 研究大会 * 授業公開を妨げない	4 ～ 5	道 生 総 書 国	* B 分野 研究大会 * 授業公開を妨げない	音 特 外 道 国	* B 分野 研究大会 * 授業公開を妨げない
北 部	鳴 板 阿	門 野 波	3 ～ 4	家 理 体 育		道 生 総 書		4	音 特 外 社 国		算 図 国 家	
南 部	小 松 阿 那 海	島 浦 南 賀 部	3 ～ 4	道 生 総 書		国 音 特 外 国		3	算 図 家 庭		理 体 社 会	
西 部	美 三 吉 野	馬 好 川	3 ～ 4	国 音 特 外 国		社 算 図 数 工		2 ～ 3	理 体 科 育		生 総 書 活 合 写	

11 そ の 他

徳島県小学校教育研究会 諮 問 委 員 会

第1章 総 則

第1条 本委員会は、徳島県小学校教育研究会諮問委員会と称する。

第2条 本委員会は、徳島県小学校教育研究会の事業・組織・役員・会議・会費についての諸課題を研究協議し、徳島県小学校教育研究会会長に意見を答申する。

第3条 本委員会の事務局は、会長の指定する場所に置く。

第2章 組 織

第4条 本委員会は、徳島県小学校教育研究会常任委員及び本部事務局員をもって組織する。

郡 市 理 事		部 会 理 事		部 会 幹 事	
東部		A		A	
北部					
南部					
西部		B		B	
事 務 局					

第5条 本委員会には、次の役員を置く。

- ① 委員長 1名 ② 副委員長 1名 ③ 庶務 2名

第6条 役員の選出は、徳島県小学校教育研究会会長が委嘱する。

第7条 各役員の任務は、次のように定める。

- ① 委員長……諮問委員会を代表し委員会の会務を統括する。
審議の結果を会長に答申する。
- ② 副委員長……委員長を補佐し委員長事故あるときは代行する。
- ③ 庶 務……審議の結果をまとめ委員長に提出する。

第3章 会 議

第8条 会議は、委員長が必要に応じて招集する。

第9条 委員会は、次の事項について審議する。

- ① 本会に所属する各部会の新設・統合について
- ② 会費の改正及び運用について
- ③ その他、会長が諮問することについて

付 則

この会則は、平成10年4月1日から実施する。

この会則は、平成29年2月17日（一部改正）から実施する。

令和2年度 別途会計（教育会・弘済会・互助組合よりの助成金）について

(1) 助成額（予定額）	徳島県教育会	3,072,800
	徳島県教育公務員弘済会	300,000
	徳島県教職員互助組合	300,000
	教育会（四国大会以上）研究大会助成金	※
		3,672,800 + ※

(2) 助成金の配分と会計処理方法

- ① 小教研主催の研究大会に助成する。
- ② 助成金が入り次第、各部会に速やかに配分額を送金する。
- ③ 各部会は別途会計に繰り入れる。その会計簿、支出に関する領収書は各部会で保管する。
- ④ 使途は、各部会長の責任において支出する。
- ⑤ 「研究大会補助」2万円は、本部事業として実施する。本部へ領収書を提出する。
- ⑥ 四国大会以上の研究会には、教育会より別途助成金が出る（教育会で審議・決定される）。

助成金の各部会配分の内訳

(円)

番号	部 会 名	部 会 配 分	研究会・研究大会	教育会(四国大会以上)研究大会助成金	研究大会補助	合 計
1	校 長 研 修	70,000	0		0	70,000
2	教 頭 研 修	70,000	0		0	70,000
3	国 語	70,000	0		20,000	90,000
4	書 写	70,000	0		20,000	90,000
5	社 会	70,000	0		20,000	90,000
6	算 数	70,000	0		20,000	90,000
7	理 科	70,000	0		20,000	90,000
8	生 活	70,000	0		20,000	90,000
9	音 楽	70,000	0		20,000	90,000
10	図 画 工 作	70,000	0		20,000	90,000
11	家 庭	70,000	0		20,000	90,000
12	体 育	70,000	0		20,000	90,000
13	道 徳	70,000	0		20,000	90,000
14	特 別 活 動	70,000	0		20,000	90,000
15	総 合	70,000	0		20,000	90,000
16	外 国 語 活 動	70,000	0		20,000	90,000
17	養 護	70,000	10,000		20,000	100,000
18	情 報 教 育	70,000	10,000		20,000	100,000
19	生 徒 指 導	70,000	10,000		20,000	100,000
20	食 育	70,000	10,000		20,000	100,000
	部 会 小 計	1,400,000	40,000		360,000	1,800,000
	本 部	1,932,800			(-60,000)	1,872,800
	合 計	3,332,800	40,000		300,000	3,672,800 + ※

* H 30 より中四国、全国大会助成は、教育会へ申請

令和 2 年度 各部会費目別予算額

(円)

番号	部 会 名	研究大会費	研究調査費	研 究 成 果 刊 行 物	合 計
1	校 長 研 修	135,000	50,000	75,000	260,000
2	教 頭 研 修	100,000	20,000	140,000	260,000
3	国 語	40,000	20,000	200,000	260,000
4	書 写	30,000	30,000	200,000	260,000
5	社 会	100,000	50,000	110,000	260,000
6	算 数	40,000	40,000	180,000	260,000
7	理 科	110,000	50,000	100,000	260,000
8	生 活	130,000	30,000	100,000	260,000
9	音 楽	90,000	50,000	120,000	260,000
10	図 画 工 作	100,000	15,000	145,000	260,000
11	家 庭	60,000	50,000	150,000	260,000
12	体 育	130,000	30,000	100,000	260,000
13	道 徳	60,000	30,000	170,000	260,000
14	特 別 活 動	50,000	110,000	100,000	260,000
15	総 合	100,000	90,000	70,000	260,000
16	外 国 語 活 動	50,000	70,000	140,000	260,000
17	養 護	160,000	80,000	60,000	300,000
18	情 報 教 育	100,000	80,000	120,000	300,000
19	生 徒 指 導	100,000	40,000	160,000	300,000
20	食 育	200,000	20,000	80,000	300,000
21	各 郡 市 補 助 金	※	※	※	780,000
22	本 部	200,000	140,000	404,000	744,000
	合 計	2,085,000	1,095,000	2,924,000	6,884,000

事務局 徳島市大松小学校

徳島市大松町上野神 9 番地
電話番号 (088) 669 - 0814
F A X (088) 669 - 0849